

第 20 回防火管理検討会 議事録

1. 日時 : 平成 30 年 12 月 14 日 (金) 13:30~15:30

2. 場所 : 電気倶楽部 10 階 A 会議室

3. 出席者 : (順不同, 敬称略)

出席委員: 家城主査(東京電力 HD)*1, 牛島副主査(関西電力)*2, 越膳(電源開発), 奥本(中国電力), 北村(日本原子力発電), 鈴木(消防庁 消防大学校), 筒井(東北電力), 鶴田(秋田県立大学), 奈良間(原子力安全推進協会), 舟津(北陸電力), 宮本(中部電力) (11 名)

代理出席: 蘭(九州電力, 福田代理), 三浦(北海道電力, 名畑代理) (2 名)

常時参加: 長谷川(東京電力 HD)*3 (1 名)

欠席委員: 菅能(四国電力) (1 名)

事務局: 渡邊, 大村(日本電気協会) (2 名)

*1: 議事(1)にて主査に選任, *2: 議事(1)にて副主査に指名,

*3: 議事(2)にて常時参加者として承認

4. 配付資料

資料 20-1-1 原子力規格委員会 規約

資料 20-1-2 原子力規格委員会 運営規約 細則

資料 20-1-3 原子力規格委員会 規格作成手引き

資料 20-2-1 火災防護に関するこれまでの経緯と JEAG4103 の関係について

資料 20-2-2 火災防護管理指針 (JEAG-4103) の改定に向けた検討課題と見直しの方向性

資料 20-2-3 JEAG4103-2009 年版と保安規定/火災防護計画との比較(A チーム)

資料 20-2-4 JEAG4103-2009 年版と保安規定/火災防護計画との比較(B チーム)

資料 20-2-5 JEAG4103-2009 年版と保安規定/火災防護計画との比較(C チーム)

資料 20-2-6 JEAG4103-2009 と火災防護 (四半期及び年次) 検査ガイドの比較表作成の方法

資料 20-3 平成 31 年度活動計画 (案)

資料 20-3-参考 平成 30 年度活動計画

資料 20-参考 委員名簿

5. 議事

事務局より, 本会にて, 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後, 議事が進められた。

(1) 主査の選任, 副主査の指名

およそ 10 年ぶりの開催で, 主査不在のため主査の選任を行った。

事務局より 11 名の委員の出席があり, 決議に必要な出席数 10 名以上 (委員総数の 3 分の 2 以上出席) を満たしているとの報告があった。

主査は互選であることを事務局から説明した上で, 主査候補の推薦を募り, 家城委員が推薦された。他に推薦者がなかったため, 家城委員の主査就任について, 挙手にて決議し, 承認された。次に, 主査から副主査に牛島委員の指名があり, 牛島委員は副主査に就任された。

新しく就任された主査及び副主査から, 就任の挨拶があった。

(2) 資料の確認, 代理出席の承認, 常時参加者の承認

事務局より本日の予定, 配付資料の確認があった。また, 代理出席者 2 名の紹介があり, 主査の承認を受けた。さらに, 長谷川様の常時参加者としての参加を挙手にて決議し, 承認した。

(3) 電気協会の活動について

事務局より資料 20-1-1~1-3 に基づき, 電気協会の活動, 規格作成について, 説明があった。

○資料 20-1-1 原子力規格委員会規約

- ・原子力規格委員会－運転・保守分科会－防火管理検討会の構成となっている

○資料 20-1-2 運営規約 細則

- ・議事録は承認を得て公表する。ただし、概ね 1 か月で、確認を受けた案を HP にアップする。

○資料 20-1-3 規格作成手引き

- ・国内外の最新知見とその反映状況を示した資料を作成し、検討会付議資料とする。
- ・限定、接続詞の使用法に注意を払うこと。（及び、並びに、又は、若しくは）
- ・文章の文尾は、的確な語句を使用する。（P18）
- ・誤記防止チェックリストは、基本的に分科会審議前までに使用してその結果を記録に残す。

(4) 原子力災害に関する研究について

鶴田委員より、原子力災害に関する研究について、紹介があった。

- ・米国沸騰水型原子力発電所水素ガス爆発、中部電力浜岡原子力発電所 1 号機配管爆ごう事故、関西電力美浜発電所 3 号機配管破損事故、中部電力浜岡原子力発電所廃棄物減容処理装置建屋火災、関西電力大飯発電所 3、4 号機廃棄物処理建屋火災等の紹介があった。

(主なご意見、コメント)

- ・先日、柏崎でも洞道火災があった。大飯発電所でも火災報知器が鳴っている箇所と火災の発生した場所が離れていることがあったが、洞道火災に関しても地下 2 階で火災が発生しているにも関わらず、地下 6 階で煙が濃い状態であった。現場の煙が濃い方向に行き、火災現場に行くのが遅れた事例があった。過去の事例を踏まえて対応することが重要と考える。規格作成にあたり、過去に経験した火災を振り返り、重要なものがないか、考えていきたい。

(5) JEAG4103「原子力発電所の火災防護管理指針」の改定について

牛島副主査より、資料 20-2-1 に基づき、これまでの経緯と JEAG4103 の関係について説明があった。

また、家城主査より、資料 20-2-2 に基づき、改定に向けた検討課題と見直しの方向性について、説明があった。

- ・検討課題と見直しの方向性としては、①新規制基準要求事項の規格への反映、②新検査制度導入による対応、③米国規格類の確認
- ・資料 20-2-3、2-4、2-5 は、電事連で検討している今回参考とした資料であり、各自確認されたい。
- ・資料 20-2-6 は、今後電事連で検討するフォーマットを参考に示したもの。詳細は別途調整。

さらに、家城主査より、資料 20-3 に基づき、2019 年度の検討会の活動計画について説明があった。

○事務局から、以下の補足があった。

- ・活動計画は分科会で審議し、規格委員会に上げられる。

(主なご意見、コメント)

- ・分科会や規格委員会の上程は、2020 年度と記載されているが、10 月頃であるので 2020 年度下期としてはどうか。
- 拝承。
- ・他の検討会では、電気協会から依頼が出て、主査からメールして計画の確認を取っている。今後他の検討会と書き方を合わせた方がいいところがあれば、合わせていただければと考える。

- ・規格委員会は3, 6, 9, 12月開催であり、これに合わせることにする。
- 2020年10月規格委員会, 9月分科会ではなく, 11月分科会, 12月規格委員会となるかと考える。

- ・資料 20-2-2 P6 当面の作業スケジュールで, 現時点で比較表の作成が終わり, 保安規定, 火災防護計画の詳細比較細項目洗い出しとされている。資料 20-2-1 で, 例えば, 中越沖地震を踏まえて火災対策室が出来て, その中で議論してきたことがたくさんある。大橋 WG があり, 火災対策室で浜岡等の消防訓練を行い, 報告書が出ている。その辺は非常に参考になる。それらは調査対象とした方が良い。消防庁の方も入られて作られている。
- 対応をよろしくお願いしたい。

- ・複数同時火災はどうか。過去に議論があったので, 考え方を決めておいた方が良い。
- 取組事項が, 新規制基準を受けたもの, 新検査制度を受けたものとなっているが, 過去10年間に培われてきた知見を取り入れる。
- 今回の改定は, 事業者による検討も参考に, 基本的には審査実績及び ROP を反映するものと認識している。その点で, 規制に取り入れられていない複数火災はどうか。
- 反映するかどうかは別にして, 検討はしておく必要がある。
- きちんとレビューして, 何か拾うものがあったか, ジャッジをしておいた方が良い。

(6) 次回検討会

今回の宿題事項の新検査制度の手順の進捗を見計らって, 日程を定めることとなった。

以 上